

「いのちと生き方を考える週間」によせて

昨日(5日)、「心を育む集会」が生徒会主催で開催されました。前半は「栗原文庫」の紹介、後半は「森先生からのお話」の2本立てでした。

生徒会の二人が「栗原文庫」の紹介をしている間、私は2008年(平成20年)9月のことを思い出していました。当時私は本校勤務4年目。栗原先生が校長になられて3年目のことです。校長室で私は、栗原先生から今後のキャリアについて話をさせていただいていました。その時、栗原先生の様子が明らかに違うことに気づき、心配である旨を伝えました。二日後、栗原先生は入院され、再び学校に戻ってこられることはありませんでした。

右の写真は、その年の文化発表会の「しおりコンクール」に向け、全生徒・職員がオリジナルのしおり制作に取り組む中で、栗原先生が病床で書かれたものです。

「命あるかぎり 一日一日を大切に生きたい」

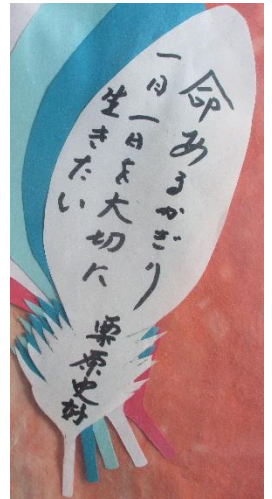
このしおりが職員室に届けられ初めて目にした時、とても胸が苦しくなったことを覚えています。おそらく、栗原先生はご自身の余命を自覚する中で、これを書かれたのではないかと思います。どんな思いで書かれたのか…想像するだけで涙がこみ上げます。

栗原先生が最後に一番伝えたかったこと、それは「命・時間を大切にしてください」ということだったと思います。

あれから17年。栗原先生の思いは脈々と受け継がれ今に至っています。そのことを嬉しく思うと同時に、私自身、栗原先生と最後にお話した部屋で、栗原先生の写真に見守られながら仕事をさせてもらっていることに、責任の重大さと有難さを強く感じた一日でした。

今月29日(土)は「ふれあい道徳(授業参観)」です

今月29日(土)に「ふれあい道徳」を実施します。また、4時間目には「親子人権・同和教育」も併せて計画しております。年に一度の土曜授業となりますので、多くの保護者様にご参観いただければ幸いです。せっかくのお休みの方も多いと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。



校長室より 中島みゆき「誕生」

今週火曜日(4日)、出張先に車で向かう際、音楽を聴きながら運転していたのですが、中島みゆきさんの「誕生」の歌詞に心打たれ、何度も繰り返し聴いてしまいました。これまで何度も耳にしていたにもかかわらず、今更ながら初めてその歌詞の奥深さに気がつきました。

「誕生」の歌詞に繰り返し登場する「Welcome」という言葉は、英語圏で子どもが生まれたときにかけてくれる祝福の言葉で、中島さんはこの文化に着目し、「いらない命なんてない」「生まれてきたこと自体が祝福されるべきこと」という強いメッセージを込めたそうです。また、この曲は単なる誕生日の歌ではなく、「再生」や「命の尊さ」をテーマにした壮大な応援歌でもあり、卒業式や結婚式など、人生の節目で流されることも多く、聴く人に「もう一度立ち上がる力」を与えてくれる楽曲です。

よかったら、ぜひ聴いてみてください。そして、「生まれてきた意味」や「これからの生き方」について親子で語り合っていたいただけたら幸いです。